



「キャンプ 瑞慶覧③」

はじめて

今回は、地域の方々からの聞き取り調査などで教えてもらったキャンプ瑞慶覧内の字喜友名・字新城を中心とした戦前の風景などを紹介します。

水田・畑

国道五八号線東側一帯は、戦前まで喜友名七泉や新城のシンバルガーなどに代表される多くの湧泉に育まれた水田が広がり、収穫時期には黄金色の稲穂が風に揺れて大変美しい風景だったそうです。湧泉付近は傾斜する地形を利用した棚田(段々状の田)で、田植えの前に、稲の種をまいて苗を育てる苗代田などとして利用されていたそうです。現在米軍の住宅が建ち並ぶ平坦地は、畑として利用されていました。

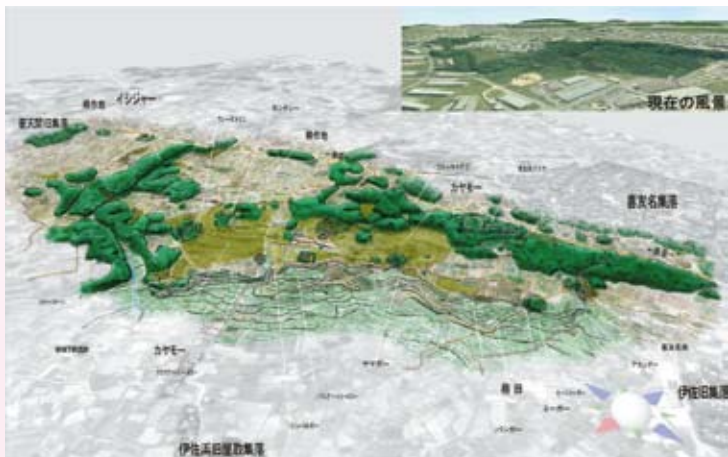
茅毛(カヤモ)

字喜友名山川原・字新城下原一帯は、字の組単位で管理する茅毛として茅葺屋根の材料に使用される真茅が一面に広がる宜野湾でも有数の茅の産地だったそうです。字で余った茅は売っていたので、他字などからは「ヤンバルガナシー、チュンナーガナシーヌアクトゥ雨ニソソリラン」(山原と喜友名の茅があったので私たちは雨に濡れないですんだ)と感謝されたそうです。

です。

インジャー

字普天間・字新城の境目付近に位置する谷間はインジャーと呼ばれ、普段は下流から水が流れ、上流は水が無い谷ですが、大雨の際には上流からも水が流れるそうです。周辺にはシークワサーやクスノキ、松、竹などがたくさん生えていて、子どもたちは学校帰りにシークワサーを食べたり、竹で釣竿を作っていたそうです。



戦前の字喜友名・字新城一帯を海側より見たイメージスケッチ

問合せ・・・文化課 ☎89314430

茶ぐわーゆんたく

馬勝負

新しい年が始まりました。今回は今年の干支である馬にちなんで、馬勝負を紹介します。

馬勝負は戦前の宜野湾村内の各字で農林業全般にわたって競い合う原山勝負の際、宜野湾馬場で行われていました。

馬勝負は二頭の対抗レースで、歩調を整えるために二、三回馬場をめぐり、歩調が揃ったら審判が「ハイ」や「ディーサイ」「ハイサイ」と号令を発し、スタートします。

競争はアシクマスンといって早足足を交互に出して、一本の足は必ず地面につけるで走るという方法で勝負をしていました。現在の競馬のように足の早さを競うのではなく、足並みの美しさを競い合っていました。それを人々は馬場の松並木の下に集り、見物しました。近くには伊祖(現浦添市伊祖)の天ぶら売りもやってきて賑わいを見せたそうです。

県下の名馬が集まって競争する馬揃いは一月十七日、七月十七日、八月十一日の年三回行われていました。

馬勝負の他に字宜野湾の綱引きなどが行われ、村民に親しまれていた宜野湾馬場でしたが、その後沖縄戦の最中に、普天間

飛行場の建設により姿を消し、馬勝負も見られなくなりました。

※宜野湾馬場↓宜野湾並松の西側にあり、主に競場が行われる場所でした。長さ約三六〇メートル、幅三六メートル位の大きさで、中頭地域でも名高い馬場でした。



馬勝負のイメージイラスト『宜野湾市史』第5巻

「宜野湾市史」への問合せ  
文化課 市史編集係(市立博物館内)

☎87019317

